

ご好評頂いております。  
農学博士・医学博士 林 晃史先生による  
連載『季節のムシ暦』の第3回目です。

## 第3回

### 早春の虫：モンシロチョウ

まだ、厳寒と云うけれど、「ムシ」は今から春を待っている。

食に関連する企業では、おおかたが「虫」を始めから悪者とする要素がある。だが、「ムシ」は悪い事ばかりでは無く、人との調和の図るものもある。

今、食品関連施設では、“防虫・防鼠”と云う作業が先行しているが、これをよく考えるとかなり、人の側のエゴがある。

四季おりおりの虫が姿を見せる環境は、心の和むものがある。

もう歴史物語になるかもしれないが、昔、小学校の国語の教科書に、“チョウチョ・チョウチョ菜の葉に止まれ”と云うくだりがあった。

新品の小学生が、入学後、間もなく遠足と云う行事で、自然に散策した所に、最初に眼にしたのが、「モンシロチョウ」である。

自然とのふれあい、和やかな田園風景の中で希望にもえて接した昆虫である。

しかしこの反面では、この虫はダイコンやナ類の害虫であった。成虫は眼に美しいが、その幼虫は「アオムシ」と呼ばれていて、野菜の葉を喰害する害虫である。

年に4～5回ぐらい発生する問題虫ではあるが、「蛹」の形で越冬をする。最近、食生活の変化か、生産の場の害虫というよりも、食品の混入異物の虫として問題になっている。

サンドイッチやカット野菜が店頭に並ばない時代は、わずかに農薬害虫として嫌われていたが、今では異物の虫として話題を提供する形となった。

問題なのは、「虫」を悪者にする前に、生活を考える必要があるのでは無いだろうか？

生活の便利さを求め過ぎて、生活に「和み」を求めて来た虫を「悪者」にする今日、今一度、考え直す時期かもしれない。

悪虫退治を「科学的防除」に保存する事を軽減させる時代に来たが、混入異物の虫「アオムシ」退治を、洗浄という手間を徹底する事で対応できる。

今、モンシロチョウに春を楽しむテクニックが求められている。これは、「IPM」と云う手法で満たす事が可能である。



季節の虫暦

③

著者 医学博士・農学博士 林 晃史

地球の環境衛生を創造する  
株式会社 FCC  
fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail [info@fccsystem.co.jp](mailto:info@fccsystem.co.jp)

# FCC News

## 2008年2月号

NO.0049



### 環境トピックス④

FCCでは今年度より各車両にエコバッグを搭載しました。

仕事柄コンビニに行く機会が多く、何気なくもらってしまっているレジ袋をできるだけ使用しないようにする為です。

現在5台ある車両で、各スタッフがエコバッグ使用を習慣化し、レジ袋の消費量を減らし、少しでも地球の環境に貢献できたらと始めました。

これからもFCCでは身近にある小さな事から少しずつでも、より良い地球の環境衛生の為に積極的に取組んで参ります。

## 製造部員の独り言

本当に月日が経つのは早いもので、入社してから1年半が経ちました。前期も1月で終わり、2月から新しい期が始まりました。

1年を振り返ると、前期の始めから、新しい製造企画部として、週2回の内勤業務を行ってきました。

内容としては、弊社の施工で主に使用しているオリジナルベイト剤を製造する事と、それに関連した同業者への販売・宣伝業務を行ってきました。



お客様もご存知かと思いますが、施工の際に使用しているクリーム状のベイト剤で、店内各所に黄色いクッキー状に固まって付いているベイト剤を製造しています。

この弊社オリジナルベイト剤は、通常の散布で使用されるような薬剤とは違い、天然素材を使用している為、人体への害は殆どありません。

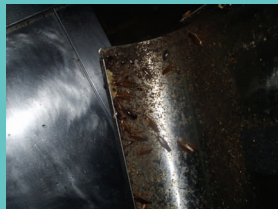
それをゴキブリは匂いにつられて、食べます。そして脱水症状をおこして、排水溝などの水場で駆除されます。

駆除剤はその作り方一つで、人体へ害を及ぼしたり、ゴキブリに対して効果が発揮できなくなってしまう事もあります。

その為、私の任されている業務は、慎重且つ的確に遂行しなくてはいけないので、悩んだりする事もあります。

その反面、施工で良い結果を得られ、やりがいも感じています。

これからも、お客様の安心を得られますように、より良いものを製造していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。



ベイト剤に群がる  
ゴキブリ

## ハサミムシ

### 『ハサミムシ』の名前は伊達じゃない？

ハサミムシの仲間はその名前が示す通り、おなかの先端にはさみを持つ昆虫のグループで、長くて平べったい腹部は自由に動き、捕まえようとする、はさみを振りかざして威嚇します。

小さいはさみですがはさむことができ、外的への威嚇や攻撃に使われるほか種類によっては食料となる小さな昆虫を捕獲するのにも使用されます。



但し、はさむ力は弱く、指を挟まれたとしても痛みは無く、傷つく事はありません

ハサミムシの仲間の殆どが夜行性で、日中は落ち葉や石、朽木の下などの目立たない場所にいることが多いです。

### 『ハサミムシ』って本当に害虫なの？

一見、サソリやゴキブリなどに類似している為、害虫と誤解されがちですが、害はまったく無いと考えてもよく、むしろ中にはシロアリや稲の害虫であるメイガなどを好んで食べる種類もいますので、益虫と扱われることもあります。

因みに、かつて日本で養蚕が盛んだった頃は、蚕を食する害虫として扱われていたことはあります。

### 対策は？

屋外や床下にハサミムシが好む暗くじめじめした環境を作らないようにします。



家屋の周辺に落葉などが溜まっていたら清掃し、虫の潜み場所を無くします。また、排水溝なども清掃して、水はけを良くする事が対策に繋がります。

ハサミムシを建物の外でよく見かける場合には、家の外周に不害虫用の粒剤を帯状に散布すると侵入を防ぐことができます。

その他、ゴキブリ用の粘着トラップを設置しておくと比較的よく捕獲されます。

## 独大学研究の成果 南極の氷は溶けない？

独・ライプチヒ大学などの研究により、歴史上でも温暖な気候だったとされている約9000万年前でも、南極大陸の約6割が氷に覆われていたと判明したそうです。



これは、11日付の米科学誌サイエンスに発表されました。

今までは、約2000万年以降に南極の氷床は発達したという見方が大部分を占めていました。

分析には、海水が含まれる酸素の同位体比（通常の酸素と、僅かに存在するより重い酸素の比）が、地球上の氷の量を反映していることを利用し行われました。

南米・スリナム沖の海底から掘削された約9200万～9060万年前の堆積物から酸素の同位体比を分析し、氷の状況を推測するという内容です。

その結果、約9100万年前頃に重い酸素の割合が急増し、海水温が現在の29度よりも高い34～37度だった事が判明。

この時期が最も高温でしたが、南極には現在の量の半分程度の氷が存在し、6割の面積が氷に覆われていたと推測しました。



陸地の配置が現在とは異なる為、単純に比較は出来ませんが、国連の「気候変動に関する政府間パネル」の予測する温暖化の最悪ケースでも、南極の氷床は広範囲には融解しないとしています。